

2014年夏。デング熱が日本各地で発生。

閉鎖された公園もあり、そのものものしい姿は私たちに「蚊がもたらす病気」の恐ろしさを実感させました。しかし蚊から感染する病気について私たちはどれほど知っているでしょう？

日本唯一のマラリアに特化したNGO「Malaria No More Japan」は、蚊が運ぶ病気を考える連続講座を開催。「蚊」「蚊が運ぶ病気」の専門家たちによる、みなさんの知らない新たな「蚊」の世界に行ってみませんか？



Malaria No More Japan連続講座
知の快感 蚊が運ぶ病気を識る

©Yasser

9/26(土)
14:00~16:00

第1回「蚊の世界へようこそ 今年もあなたをつけ狙う恐怖の蚊」

講師:高木 正洋(Malaria No More Japan理事/長崎大学名誉教授)

森田 公一(長崎大学熱帯医学研究所 所長)

会場:長崎大学坂本キャンパス・グローバルヘルス総合研究棟 1階 大講義室

10/17(土)
13:00~14:30

第2回 「マラリア防圧 世界最小・最強の殺人兵器」

講師:狩野 繁之・国立研究開発法人国立国際医療研究センター研究所 熱帯医学・マラリア研究部 部長

会場:国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 研究所 地下1階大会議室AB

11/14(土)
16:00~18:00

第3回 「エコヘルス 環境破壊が感染症を引き起こす？」

講師:門司和彦・長崎大学大学院国際健康開発研究科 研究科長

会場:長崎大学坂本キャンパス・グローバルヘルス総合研究棟 1階 大講義室

12/12(土)
13:00~15:00

第4回 「ワクチンはどこだ 感染症から身を守る」

SPEAKER

高尾 剛正・住友化学株式会社 副会長

高野 哲朗・エクソンモービル・LNG・マーケティングデベロップメント・インク 日本支店 首席代表
ファシリテーター

北 潔・東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻生物医科学教室教授

長崎大学熱帯医学・グローバルヘルス研究科 研究科長

会場:国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 研究所 地下1階大会議室AB

■主催:認定NPO法人Malaria No More Japan

■共催:国立研究開発法人国立国際医療研究センター/長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科

■申込先:Malaria No More Japan事務局 (info@mnmj.asia)

*申込時に氏名、ご所属、肩書、ご連絡先、何回目の講座に参加されるかお伝えください。

連続講座第1回 「蚊の世界へようこそ 今年もあなたをつけ狙う恐怖の蚊」(於:長崎大学坂本キャンパス)

【レクチャー①:蚊について知ろう】(講師:高木正洋)

2014年夏、日本では Dengue 熱の発生で蚊除けグッズが面白いほど購入された。今年も早い時期から蚊除けグッズが多数売り出されている。しかしそもそも病気を運んでくる蚊はどんな生き物なのでしょう?蚊を知ることは、蚊を媒介する感染症の理解の第一歩でもあり、人類と蚊の関係、ひいては生態系の理解の第1歩でもあります。蚊の知られざる生態を知ることは、私たちが「既知のもの」と思っていた世界が「未知のもの」だったことに気づかされるプロセスでもあります。ミクロな「蚊界」の世界へ出かけてみませんか?

【レクチャー②: Dengue が日本に上陸するまで 感染経路の秘密】(講師:森田公一)

人類はその歴史の中で常に感染症と闘ってきました。昨年話題になった Dengue 熱、そして今なお1分に1人の命を奪うマラリアは、蚊から感染しています。しかし実は意外に知らないのが、その感染のプロセス。そもそも蚊からどうやって病原体が運ばれるのでしょうか。Dengue 熱を例にその仕組みを考えてみます。講義では今年の Dengue 熱の日本での再流行を事例に、その感染経路、対策、ワクチン開発の現状など最先端の状況も紹介します。

講師略歴

■高木正洋 (Malaria No More Japan 理事、長崎大学名誉教授)

京都大学農学部卒、同大学院修了。三重大学で医学博士。三重大学、国立予防衛生研究所(現・感染研)を経て長崎大学熱帯医学研究所。同大学副学長などを歴任。WHO(Dengue 熱媒介蚊対策)、JICA(マラリア媒介蚊対策)へ出向の他、主に熱帯での臨地研究に従事。専門は蚊の生態学。現在長崎県大村市にてスローライフを実践中。

■森田公一(長崎大学熱帯医学研究所長)

1981年長崎大学医学部卒業、1985年長崎大学大学院医学研究科修了(医師、医学博士)。

長崎大学熱帯医学研究所助手、ニュージャージー医科大学助手、世界保健機関(WHO)西太平洋地域事務局感染症対策課長、長崎大学熱帯医学研究所講師を経て2013年より長崎大学熱帯医学研究所長。専門はウイルス学。熱帯の開発途上国での感染症対策などを研究。

連続講座第2回 「マラリア防圧 世界最小・最強の殺人兵器」(於:国立国際医療研究センター研究所)

マラリアは怖い。そんなイメージは私たちみんなが持っているでしょう。人類史を紐解くと、マラリアは古くから世界で流行し、多くの人びとの命を奪ってきました。そのマラリアの防圧の試みは、19世紀より様々な形で取り組まれているものの、今なおその拡散が続いている状況です。また、近年では薬剤への耐性を獲得したマラリア原虫が出現するなど、新たな問題も生じています。第2回目の講座は「世界三大感染症」の一つとされるマラリアについて、その感染・発症の仕組みと、現在の対策研究の最前線を体系的に学びます。

講師略歴

■狩野繁之(国立研究開発法人国立国際医療研究センター研究所熱帯医学・マラリア研究部 部長、医学博士)

専門は熱帯医学・寄生虫学。JICA、WHO、Global Fund、APLMAなどの国際的なマラリア対策支援活動に長く係わり、わが国の国際保健医療政策で成果をあげている。

1986年 群馬大学医学部卒業、1991年 群馬大学大学院医学研究科博士課程(寄生虫学専攻)修了、医学博士。同年より群馬大学医学部寄生虫学教室に勤務。助手、講師、助教授を経て1998年に国立国際医療センター研究所適正技術開発・移転研究部(名称当時)部長に就任、2010年から現職。

「併任現職」筑波大学医学医療系国際医療学分野教授、フィリピン大学公衆衛生学専攻客員教授、ラオス国立パスツール研究所(ラオス-日本寄生虫学研究室/SATREPSプロジェクト)室長「学会活動」日本熱帯医学会理事、日本国際保健医療学会理事、日本渡航医学会理事、日本寄生虫学会理事、日本臨床寄生虫学会理事/事務局長、日本感染症学会評議員、世界熱帯医学者連盟副理事長、他「趣味」空手、書道、マラソン

連続講座第3回 「エコヘルス 環境破壊が感染症を引き起こす?」(於:長崎大学坂本キャンパス)

潘基文(パン・ギムン)国連事務総長は、2015年7月6日、「ミレニアム開発目標(MDGs)報告2015」を発表し、「極度の貧困をあと一世代でこの世からなくせるところまで来た」と成果を強調しました。多くの分野で進歩が見られた一方で、世界の二酸化炭素排出量は、1990年以降50%以上増加しており、水不足は世界の人口の40%に影響を及ぼし、今後その割合は増加すると見込まれるなど、気候変動と環境悪化が開発に関わる様々な分野に影響を及ぼしていることが指摘されています。

環境要因は、感染症にも大きな影響を与えます。気候変動による、これまで発生しなかった国や地域での感染症の発生、森林破壊や人口増に伴う土地への負担の増加は、環境を悪化させ、結果として感染症の蔓延に影響する可能性もあります。さらに、近年のグローバル化の中で、ヒトの移動の加速化も環境変動に大きく影響することも懸念されます。生態系や環境の変化は感染症とどうかかわるのか、地球環境と感染症の関係を考えてみませんか?

講師略歴

■門司和彦・長崎大学大学院国際健康開発研究科 研究科長

総合地球環境学研究所教授、「熱帯アジアの環境変化と感染症」プロジェクトリーダー(2007~2012年)。専門は人類生態学・熱帯公衆衛生学。東京大学大学院博士課程単位取得満期退学、保健学博士。東京大学医学部助手、長崎大学医学部助教授、同医学部保健学教授、長崎大学熱帯医学研究所附属熱帯感染症研究センター教授を経て2007年10月より現職。著書に「生態人類学を学ぶ人のために」(共著)、訳書に「感染症疫学」(共訳)など。

連続講座第4回 「ワクチンはどこだ 感染症から身を守る」(於:国立国際医療研究センター研究所)

世界三大感染症のひとつであるマラリア。1分に1人が命を落とすと言われていますが、なぜこのマラリアの撲滅は成功しないのでしょうか?第2回に続き、マラリアに焦点を当てて、研究及び実際の援助の現場の最前線を紹介。本講座では、特に日本企業の取り組みとして途上国で勤務する企業がどのような対策をしているのか、現場の様子と日本の企業が開発した防虫剤処理蚊帳「オリセット®ネット」の配布の現場、その効果を知ることで、私たちに何ができるのかを考えます。第4回目は、スピーカーに高尾剛正・住友化学株式会社副会長及び高野哲朗・エクソンモービル・LNG・マーケティングデベロップメント・インク 日本支店首席代表を迎えシンポジウム形式で開催します。

ファシリテーター略歴

■北 潔・東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻生物医学学教室 教授、長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科 教授、研究科長(クロスポイントメント)

専門は生化学・分子寄生虫学・熱帯医学・国際保健学。1974年東京大学薬学部卒業。1980年東京大学薬学系大学院博士課程修了、薬学博士(東京大学)。東京大学理学部・植物学教室助手、順天堂大学医学部・寄生虫学教室助手、講師、イリノイ大学客員研究員、東京大学医学研究所・寄生虫研究部助教授を経て、1998年より東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻生物医学学教室教授、現在に至る。2008年~2011年 同大学医学部健康総合科学科 学科学科長、2011年~2015年3月 同大学医学系研究科 副研究科長・副医学部長を歴任。2002年日本寄生虫学会「第49回小泉賞」、2012年日本熱帯医学会「第9回日本熱帯医学会賞」、2013年厚生労働省「第11回産学官連携功労者厚生労働大臣賞」受賞。

■スピーカー

高尾剛正(住友化学株式会社副会長)／高野哲朗(エクソンモービル・LNG・マーケティングデベロップメント・インク 日本支店首席代表)

長崎大学坂本キャンパス1へのアクセス



住所:長崎県長崎市坂本1-12-4
〔長崎空港から〕
県営バス「長崎空港4番のりば」より昭和町・浦上経由長崎方面行き「浜口町」下車
〔長崎駅から〕
路面電車 「長崎駅前」より赤迫行き「浜口町」下車
長崎バス 「長崎駅前」より8番系統下大橋行き(医学部経由)「医学部前」下車

ACCESS MAP

国立国際医療研究センター 研究所 へのアクセス

住所:東京都新宿区戸山1-21-1
〔電車で〕
都営大江戸線「若松河田駅」から徒歩5分
都営大江戸線「早稲田駅」から徒歩10分



〔都営バスで〕
宿74系統「新宿駅」から女子医大行き「国立国際医療研究センター前」下車
橋63系統「大久保・新大久保」から新橋行き「国立国際医療研究センター前」下車

ACCESS MAP